

14 番（小川義昭議員）

今教育長のほうから前向きな御答弁をいただきましてありがとうございます。ぜひ今後その置き勉の自由化を進めていただいて、特に重いタブレットについても学校に置いておくような配慮をひとつお願いしたいなど。そしてこのことについて今答弁がありましたように、やはりかばんの重さ対策についてしっかりと各小学校、それから中学校のほうに徹底するようにどうかひとつ指導のほうをお願いいたします。

そして、今教育部長からも答弁がありましたように、子供の成長、本当に成長期の子供にそういった負荷をかけるということは、私はやはり将来の大きなマイナスになるのではないかと、大きな負担になるのではないかなと思っていますので、どうかその子供たち、児童・生徒たちの健康、安全を守っていくためにもよろしくお願ひしたいというふうに思います。

それにつけ加えていけば、これから蒸し暑い梅雨からそれから灼熱の夏に入ります。過日 10 日ですか、末松文科相が会見で各地の学校で熱中症による搬送が相次いでいるとして、学校生活でのマスク着用については、熱中症対策を優先することを徹底を、というふうに述べておられます。そして、体育の授業や運動、部活中、それから特に登下校時は児童・生徒にマスクを外すよう指導することを求める通知を全国の教育委員会に出したということでもありますので、どうかこのことも踏まえ、白山市においてもそのような通達をしっかりと守っていただくよう教育長のほうからもそれぞれの小学校、中学校に通知していただければ幸いかなというふうに思いますので、どうかよろしくお願ひいたします。

本日は、私の質問は松任総合運動公園の再生総合事業と児童のランドセル問題を柱に執行部のお考えを問う質問をさせていただきました。この 2 つの質問は、一見して無関係のようですが、将来の白山市の都市戦略をどのように見据え、いつかその時代の主役となる子供たちの将来を思いやる視点で眺めれば決して無関係なことではありません。

そこで、最後の質問であります。

我が愛すべき白山市には、近隣の自治体から突出したくないとの消極性だけは持っていたきたくはありません。また、無意味な前例主義にも陥っていただきたくはありません。そうした気概を宿したこの白山市だからこそ、有権者である市民は白山市を信じ、多くの施策を受け入れてくださることをどうか執行部の皆さんは肝に銘じて仕事に精魂を傾けていただきたいと思います。

この点の覚悟や気概の持ちようについて 2 期目の任期の最後の年となります山田市長の思いをお聞かせください。